SDGs アクションブック みなとく

芝浦港南地区

2021-2023

SKDs学びのまちプロジェクト

SDGs
アクションブック
みなとく
芝浦港南地区
2021-2023

MINATO CITY

お問い合わせ
港区芝浦港南地区総合支所 協働推進課 地区政策担当
〒105-8516 東京都港区芝浦1-16-1 TEL 03-6400-0013
https://www.city.minato.tokyo.jp

本冊子は東京都港区芝浦港南地区総合支所が推進する「SKDs学びのまちプロジェクト」の一環で制作されました。SKDsはS（芝浦） K（海岸2・3丁目、港南） D（台場） s（サスティナブル）をつないだ言葉です。本プロジェクトは若年層を中心に、地域で活躍できる機会を創出し、地域の活性化を図るとともに、将来的に地域活動の担い手として活躍することを目指して2021年度より実施している事業です。

SDGs アクションブック みなとく

芝浦港南地区

2021-2023

SKDs学びのまちプロジェクト

Contents

はじめに …… 4

SDGsアクション in 港区芝浦港南地区

1 みんな食堂 …… 6
2 Madre …… 8
3 パルシステムのリユース・リサイクル …… 10
4 芝浦プロジェクト …… 12
5 Synecoculture™（協生農法®） …… 14
6 ポカリスエット …… 16
7 ガンプラリサイクルプロジェクト …… 18
8 芝浦一丁目町会、芝浦三・四丁目町会、芝浦商店会 …… 20
9 社会福祉法人港福会みなと工房 …… 22
10 森永製菓株式会社 …… 24
11 港区地域交通課 …… 26
12 株式会社SHIBAURA HOUSE …… 28
13 みなとリサイクル清掃事務所 …… 30
14 東京ベイ・クリーンアップ大作戦 …… 32
15 超短時間雇用 …… 34
16 RDD浜松町ビルディング …… 36
17 特定非営利活動法人Waffle …… 38

18 高校生、運河を歩く！ …… 40
19 Hi-NODE TOKYO HiNODE PiER …… 44

SKDs学びのまちプロジェクト ３年間の歩み …… 46

SDGsが身近になる施設

20 港区立男女平等参画センター（リーブラ） …… 52
21 港区立伝統文化交流館 …… 53
22 港資源化センター …… 54
23 芝浦公園 …… 55

※地図上の番号は、団体・取組の所在地または取材地です

衛星写真（2018年４月～2019年４月 撮影）をもとに作成

はじめに

「SDGsアクションブック みなとく芝浦港南地区2021-2023」は、東京工業大学附属科学技術高等学校の有志の生徒の皆さんが３年間にわたり、SDGsの観点で、芝浦港南地区の企業・団体の活動を取材してきた成果を広く発信するための冊子です。

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、初年度と２年目は、緊急事態宣言等により取材活動はなかなか進まず、オンラインでの取材を取り入れながら原稿を作成していただきました。３年目は、新型コロナウイルス感染症が、２類相当から５類感染症に変更になったことに伴い、対面での取材が徐々にできるようになってきましたが、やはり通常の状態と比べると苦労の多い活動となりました。

このような困難な状況にあっても、事前準備を行い、熱意をもって取材に取り組み、原稿を作成していただいた東京工業大学附属科学技術高等学校の生徒の皆さん、本当にありがとうございました。

この冊子を読んだ皆さんがSDGsについて、興味・関心を持ち、自分の身近なことに目を向け、自分にできることを行動にすることで、今ある課題に取り組み、2030年に向けて未来を変えていくきっかけになると幸いです。

最後に、この冊子の作成にあたり、取材にご協力いただきました企業・団体の皆様、生徒の活動を温かく見守っていただいた全ての皆様に心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

芝浦港南地区総合支所長
上村　隆

SDGsアクション in 港区芝浦港南地区

《 高校生による取材ページの構成 》

活動を代表するSDGsの目標です。

取材した活動が多様なテーマとつながっていることが分かるように、関連するSDGsの目標をハイライトしています。

SDGsアクション in
港区芝浦港南地区
《 みんな食堂 》

子どもたちの身体と
心の健康のために

企業が運営する子ども食堂

日本にも、１日３食満足にご飯を食べることのできない家庭は存在しています。日本で一番平均所得の高いとされている港区も例外ではありません。そのような家庭のため、一般社団法人ハートリボン協会は港区の協力のもとに「みんな食堂」を開催しています。

みんな食堂は、提携した飲食店で食事を提供する子ども食堂です。食事は、「味も見た目にもおいしく食べてもらいたい」とプロの料理人が調理。協賛企業から提供された食品なども、申込者に配布しています。貧困状態であっても子どもたちが現状を卑下せず前を向き、楽しく食事できることを目標に、開放的な飲食店を会場にして明るく入りやすい子ども食堂にしています。

みんな食堂は、栄養を補いお腹を満たすだけでなく、調理時間が親子のコミュニケーションの時間に変わり会話が増えることなどで、心まで満たすことも大切な活動のひとつとしています。さらに、心のケアとして、子どもたちに接する機会を増やし、いじめ防止を啓発しているという側面もあります。

子どもたちの身体と心をケアできる場を広げるための活動は、これからも続きます。

新型コロナウイルス感染症の流行により、取材時にはお弁当を配布。親子がお弁当を店頭に受け取りに来ていた

栄養バランスを考えて作られた魚料理メインの「あおべん」(手前)と肉料理メインの「あかべん」(奥)

★ もっと知りたい！
子ども食堂プロジェクト(一般社団法人ハートリボン協会)
https://heart-ribbon.jp/activity/project.html
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/minnasyokudou.html

6　取材メンバー ： 杉浦沙紀、和田沙来、尾関空翔(2021年度取材)

取材した活動へのアクセス情報です。個々の取組について、さらに詳しく知りたい場合にご利用ください。

高校生たちによる、より詳しい取材レポートをウェブサイトに掲載しています。QRコードからもアクセスできます。

1 貧困をなくそう

SDGsアクション in
港区芝浦港南地区
《 みんな食堂 》

子どもたちの身体と心の健康のために

新型コロナウイルス感染症の流行により、取材時にはお弁当を配布。親子がお弁当を店頭に受け取りに来ていた

取材メンバー ： 杉浦沙妃、和田沙来、尾関空翔(2021年度取材)

企業が運営する子ども食堂

日本にも、１日３食満足にご飯を食べることのできない家庭は存在しています。日本で一番平均所得の高いとされている港区も例外ではありません。そのような家庭のため、一般社団法人ハートリボン協会は港区の協力のもとに「みんな食堂」を開催しています。

みんな食堂は、提携した飲食店で食事を提供する子ども食堂です。食事は、「味も見た目にもおいしく食べてもらいたい」とプロの料理人が調理。協賛企業から提供された食品なども、申込者に配布しています。貧困状態であっても子どもたちが現状を卑下せず前を向き、楽しく食事できることを目標に、開放的な飲食店を会場にして明るく入りやすい子ども食堂にしています。

みんな食堂は、栄養を補いお腹を満たすだけでなく、調理時間が親子のコミュニケーションの時間に変わり会話が増えることなどで、心まで満たすことも大切な活動のひとつとしています。さらに、心のケアとして、子どもたちに接する機会を増やし、いじめ防止を啓発しているという側面もあります。

子どもたちの身体と心をケアできる場を広げるための活動は、これからも続きます。

栄養バランスを考えて作られた魚料理メインの「あおべん」(手前)と肉料理メインの「あかべん」(奥)

★ もっと知りたい！

子ども食堂プロジェクト(一般社団法人ハートリボン協会)
https://heart-ribbon.jp/activity/project.html
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/minnasyokudou.html

17 パートナーシップで目標を達成しよう

SDGsアクション in
港区芝浦港南地区
《 Madre 》

柔軟な働き方と共感力で インクルーシブな社会を

ロビーチェア「Madre」。背もたれがなく気軽に座れるシート、座りやすくて立ち上がりやすい設計など、アイデアが光る(提供:コクヨ)

共感力の結晶「Madre」

「コクヨといえば文房具」というイメージが強いですが、オフィス家具を中心としたファニチャー事業も行っています。ロビーチェア「Madre(マドレ)」の開発では、理想の心地よさ、使い勝手を追求してインクルーシブデザインの手法を取り入れました。

Madreは、コクヨ株式会社★が大切にする「利用者への共感力」が光る商品です。デザインの際にはワークショップを開催し、障害のある人との話し合いが重ねられました。「車いすでも自立して、できることは自分でしたい、特別扱いされたくない」という意見に応え、「車いす利用者が使いやすい」というテーマで作られたのです。

設計の際には、ひとり掛けのいすとふたり掛けのいすを組み合わせることで、車いす利用者がほかの人と一緒に待てる空間ができるように工夫。さらに「立ち上がりやすい座面の高さ」「手をかけやすいひじ掛けの長さ」などの使いやすさも模索しています。様々な心づかいによって、ベビーカーを押す人、杖をついている人にも使いやすくなりました。

最初は特定の人のためにデザインされたものでも、アイデアや使いやすさを追求していくことで、ほかの人にも心地よくなるのだと思いました。きっとそれこそが「インクルーシブデザイン」の肝なのでしょう。

取材中。高齢者や障害者など、デザインプロセスから外されてきた人々と商品開発をする手法「インクルーシブデザイン」を取り入れたという。「共感力」を強く感じた

★ もっと知りたい!

コクヨ株式会社　https://www.kokuyo.co.jp
Madre　https://www.kokuyo-furniture.co.jp/products/office/madre/
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/kokuyo.html

取材メンバー ： 生野茉椰、坂本涼風、大石和奈(2021年度取材)

12 つくる責任 つかう責任

SDGsアクション in 港区芝浦港南地区

《 パルシステムのリユース・リサイクル 》

ともに暮らし、ともに生きる

港センターでの見学の様子。回収した資源の分別について説明してくれた

資源を回収して再利用、循環型社会へ

みなさんは、パルシステム生活協同組合連合会★という組織を知っていますか？　パルシステムは非営利の協同組合で、消費者が助け合い、よりよい社会をつくることを目的とした組織です。組合員による「出資」「運営」「利用」によって持続可能な社会を目指しています。SDGsに関連する活動もたくさん実施しています。

パルシステムでは、注文に使うカタログだけでなく牛乳やジュースを入れる紙パックやビン、卵の容器なども組合員から回収し、職員が一つひとつ丁寧に分別して、資源として再利用します。

パルシステムの配送センターである港センターでは、産地やメーカーから輸送されてきた商品をトラックに積み、組合員の元へ届けています。同時に、組合員から使い終わった資源を回収して分別、リサイクルセンターへ送ることで、持続的な社会の実現に向かっているのです。今後はチラシなどで資源の回収をさらに促すことで、回収率やリサイクル率の向上を目指しています。

小さくても一人ひとりの協力が重要です。私たち高校生が自らこういった情報を知り、発信することがこれからは大切だということも分かりました。

実際に組合員に配った分別についてのチラシを見せてもらった

★ もっと知りたい！

生協パルシステム
https://www.pal-system.co.jp
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/palsystem.html

取材メンバー ： 小田切四季、後藤 藍、中嶋つつみ、堀 菜々子、湊 悠月（2021年度取材）

11 住み続けられるまちづくりを

SDGsアクション in
港区芝浦港南地区
《芝浦プロジェクト》

環境と地域にやさしいまちづくりを実現する

芝浦プロジェクトの完成予想パース。区域面積は東京ドーム一個分相当。オフィス、商業、ホテル、共同住宅などで構成される予定(提供:野村不動産)

人と自然をつなぐ

東京には多くの建物があり、自然環境に悪影響を与えてしまう可能性もあります。野村不動産株式会社は、そうした影響を最小限に抑えるための配慮を行い「芝浦プロジェクト★」を推進しています。

港区におけるCO_2排出量の7割は、事務所ビルやホテルなど業務部門から出ています。芝浦プロジェクトでは街区(がいく)全体でCO_2排出量「実質0(ゼロ)」の実現のため、野村不動産グループのエネルギー事業などによる「太陽光発電」と「カーボンニュートラル都市ガス」の導入を計画しています。また、一般的なオフィスビルの消費エネルギーで4割を占める空調設備には輻射(ふくしゃ)空調を導入し、天井面のパイプに冷温水を流すことで快適性と省エネルギーの実現も目指しています。

自然も積極的に取り込み、人々が運河や緑を眺めて楽しめる空間を設けます。ある研究では、人は自然に囲まれた空間で過ごすと快適に感じ、リラックスできることが報告されています。生活しやすく働きやすい環境を提供することで、多くの人が集まります。人が心地よく感じ集えるまちをつくることも、計画の目標のひとつとしているのです。

自然と人の架け橋となる施設が増えることは、環境にやさしい地域への大きな一歩となるでしょう。

取材時の集合写真。前列が、東京工業大学附属科学技術高等学校の取材メンバー。後列中央は引率の教員。後列左右2名ずつが、取材に応じてくれた野村不動産社員

★ もっと知りたい!

芝浦プロジェクト(事業主体:野村不動産株式会社、東日本旅客鉄道株式会社)
https://www.nomura-re.co.jp/cfiles/news/n2021092801898.pdf (2021年9月)
https://www.nomura-re.co.jp/cfiles/news/n2022052302034.pdf (2022年5月)
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/nomurahudousan.html

取材メンバー : 安田 皓、佐藤凌真、玉置丈暉、番所慧吾(2021年度取材)

2 飢餓をゼロに

SDGsアクション in
港区芝浦港南地区
《 Synecoculture™（協生農法®）》

“組合せ”で植物の力を引き出す

都会のど真ん中にある六本木ヒルズけやき坂コンプレックス屋上庭園。一見、植物にあふれる普通の庭園だが、たくさんの無機的な高いビルに取り囲まれ、両者のコントラストが強い

ビルの屋上で、世界の自然を発展させる

農業は、食料を生産する一方で自然環境に負荷をかけています。そこで株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所★の研究員である舩橋真俊さんは、多様な生物の共生と環境負荷低減の実現に向けて「Synecoculture™（協生農法®）」を研究しています。協生農法では、自然の自己修復能力や生態遷移などを利用し、最適化した生態系をつくります。“最適化”とは「複数種の植物が与えられた環境で競合共生しながら、それぞれ最大限に成長すること」。ブルキナファソ、マリ、フランスのパリ、日本では伊勢、大磯など世界中で研究されてきました。

今回は、東京・六本木の実験農園を訪問しました。「六本木ヒルズけやき坂コンプレックス」の屋上庭園では、「人間は自然にどう関わればいいか」をテーマに協生農法をデータ化し、世界に広めるための研究をしています。研究では、植物の多様性の低い区画、高い区画、中間の区画の３種類に分け、水の通りやすさや状態をこと細かく調べ、一番効率の良い土を作れる植物の組合せを探ります。３年間で、200種類以上の植物で実験したそうです。

研究を直接見て、協生農法のすごさを体感しました。近い未来にはこの農法が、あたりまえになっていることを期待しています。

左は植物の多様性が低く、中央は植物の多様性が高い区画。右はその中間。多様性の度合いによって、植物の繁殖の仕方にどれだけ差があるかが分かる

★ もっと知りたい！

株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所
https://www.sonycsl.co.jp/
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/sony.html

取材メンバー ： 秋元博文、森 隆司、島村美帆(2021年度取材)

3 すべての人に健康と福祉を

SDGsアクション in
港区芝浦港南地区
《ポカリスエット》

科学的な視点で製品を作り人々の健康を増進する

ポカリスエットは、日々の健康維持や増進をサポートする、大塚製薬のニュートラシューティカルズ事業製品のひとつ。パッケージの青色は海、白色は波をイメージ(提供:大塚製薬)

人々に寄り添う「汗の飲料」

私たちが汗をかいてのどが渇いた時によく飲む「ポカリスエット★」は、SDGsとつながりがあるのを知っていますか？

ポカリスエットは、人々の日々の健康維持と増進をサポートする、大塚製薬株式会社のニュートラシューティカルズ事業製品のひとつ。「飲む点滴」をヒントに、多くの研究や実験を重ねた「科学の視点」から開発された、水分と電解質をスムーズに摂取できる健康飲料です。ターゲットは「水分が不足し水分補給を必要としている人」全て。体調管理のために常備しておくと心強い存在です。

また、大塚製薬では、人々と環境に寄り添う活動を実施しています。例えば、ポカリスエットを通した健康啓発です。スポーツ活動の場や工場、高齢者向け福祉施設などで、熱中症対策についての講座を行っています。この啓発活動は30年間以上継続しているそうです。

ほかにも、大塚製薬の所属する大塚グループ全体で、ペットボトルに使うリサイクル原料や植物由来の原料の割合を、2030年までに100%に移行する目標を立てました。私たちの身近なところで、SDGs達成に向けた活動がどんどん進んでいます。

「水分と電解質(イオン)補給の重要性」の情報提供を社員が行う出張講座(提供:大塚製薬)

★ もっと知りたい！
ポカリスエット
https://pocarisweat.jp
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/ootsukaseiyaku.html

取材メンバー ： 加藤早蘭、篠田 凜、鈴木望加(2021年度取材)

12 つくる責任 つかう責任

SDGsアクション in 港区芝浦港南地区
《 ガンプラリサイクルプロジェクト 》

ファンと育てたガンプラを未来へとつなぐために

ガンダムR作戦の会場でエコプラを組み立てる来場者。ランナーはその場で回収された。最終日には、それまでに回収したランナーで大きなガンダムの頭が制作された
©創通・サンライズ(提供:バンダイナムコグループ)

“ファンとともに”リサイクル

バンダイナムコグループは、ファンとともにプラスチックごみ削減という大きな問題に立ち向かっています。

「ガンプラリサイクルプロジェクト★」では、ガンダムのプラモデル「ガンプラ」を購入したファンから、部品をつなぐランナーを回収し、生産過程で発生した廃プラスチックとともに、リサイクルしています。廃棄物の焼却で発生する熱を工場の電力に変える「サーマルリサイクル」、リサイクル素材を利用したプラモデル「エコプラ」に変える「マテリアルリサイクル」、化学処理で新しい樹脂に生まれ変わらせる「ケミカルリサイクル」の3つの方式を利用し、循環型社会に貢献することを目標としています。

マテリアルリサイクルで作られたエコプラは、100%リサイクル素材のガンプラです。2021年に全国30カ所で行われた「ガンダムR(リサイクル)作戦」では体験キットとしてエコプラが無料配布されました。このイベントでリサイクルを啓発でき、ファンのリサイクル素材利用に対する良い反応も見ることができたそうです。ガンプラを愛しているファンがたくさんいるからこそできる、素晴らしいプロジェクトだと思います。

ガンダムR作戦では、ランナーがリサイクルされエコプラになるまでを示したパネルも展示された　©創通・サンライズ(提供:バンダイナムコグループ)

★ もっと知りたい!

ガンプラリサイクルプロジェクト
https://www.bandaispirits.co.jp/hobbycenter/recycleproject.html
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/bandainamco.html

取材メンバー ： 大石和奈、坂本涼風(2021年度取材)

11 住み続けられるまちづくりを

SDGsアクション in 港区芝浦港南地区

《 芝浦一丁目町会、芝浦三・四丁目町会、芝浦商店会 》

挨拶が自然に生まれる コミュニティ活動

私たちが2022年10月２日に訪れた、芝浦運河まつり。ライブステージや模擬店があり、模擬店には飲食店やゲームコーナーなどがあって幅広い年代が楽しめるように工夫されていた

多様なイベントで地域の人との交流を増やす

私たちは田町駅から学校までの道以外を通る機会があまりなく、芝浦地区にある、ものやことについて分かっていません。そこで、町会・商店会のみなさんに、芝浦地区のまちについてお聞きしました。地区としての最終目標は、地域の人たちが自然に挨拶を交わす関係を醸成することで、地域の安全性を高めることだそうです。芝浦地区では、地域の人との交流を増やすために、多様なイベントを実施しています。誰もが楽しめるイベントから、清掃活動や防犯パトロールまでたくさんあります。参加者の「楽しかった」という感想が励みになっているそうです。

町会・商店会の取組は、SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」に関わることが重点的に行われていると感じました。地域の人と仲良くなることでコミュニティ活動を活性化させ、イベントに関わってくれた人々と定期的にお付き合いする関係を築いているそうです。祭りなど、地域のイベントを止めるのは簡単です。だからこそ昔から続いているものを楽しく続けていこうとする姿勢に感銘を受けました。

私たち高校生にできるのは、救命救護の資格を取ることだそうです。今できることを行い、お世話になっている身として少しでも力になりたいと感じました。

芝浦一丁目町会　岡田祥男会長、芝浦三・四丁目町会　櫻井 泉副会長、芝浦商店会　大野岳史会長への取材の様子。取材は会館としても使われている事務所で行った

★ もっと知りたい！

芝浦一丁目町会　http://shibaura1.org
芝浦三・四丁目町会　http://www.shibaura3-4.com
芝浦商店会　https://shibaura-shoutenkai.com
詳しい記事はこちら　https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/choukaisyoutenkai.html

取材メンバー ： 栗原萌花、星見和哉、鈴木創妃光、平澤輝一（2022年度取材）

3 すべての人に健康と福祉を

SDGsアクション in 港区芝浦港南地区

《 社会福祉法人港福会みなと工房 》

心の病に理解と寄り添いを

みなと工房が運営する港区立伝統文化交流館の喫茶「紫陽花庵」では、飲み物や甘味、焼きおにぎりなどを提供する

利用者とともに歩み、一人ひとりをサポート

現在、日本では障害者の数が増加しています。それに伴い、障害によって望むように働けない方たちの「働きたい」という希望に合わせ、働く機会を提供する場があります。社会福祉法人港福会みなと工房★は、精神障害のある方や精神科に通院している方のうち、働きづらさを感じる方たちに、支援と働く場を提供しています。

みなと工房では、利用者の心身の健康を考慮し生活リズムを整えるために日課がありますが、その日の体調に合わせて、その日にすることを決めています。また自分の思いを他者に伝え、多くの人の話を聞き他者に共感することで、自分の生活に活かす時間も設けています。さらに、ワークタイムでは、様々な作業を通じて連帯感や達成感を感じられるよう特性や希望に合わせて作業の内容を変えています。

みなと工房では港区立伝統文化交流館内の喫茶「紫陽花庵」と、札の辻スクエアにある「みなと茶寮」のふたつの軽飲食店の運営もしています。取材では実際に働いている方にお話を伺いました。障害があること自体が辛いのではなく、障害がありながら生きる時に感じる辛さがあること、その人らしく生きられること、周囲が理解し寄り添うことが大事なのだと学びました。

カフェラテと今川焼も、とてもおいしい

★ もっと知りたい！

社会福祉法人港福会みなと工房
http://koufukukai.la.coocan.jp
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/minatokoubou.html

取材メンバー ： 杉浦沙妃、佐藤理沙子、加藤早蘭(2022年度取材)

12 つくる責任 つかう責任

SDGsアクション in
港区芝浦港南地区
《 森永製菓株式会社 》

持続的な食品づくりのためにできることを

森永製菓には菓子食品事業、冷菓事業、inゼリーやinバープロテインなどの事業がある
（提供：森永製菓）

食品の裏に隠れる多くの問題へのアプローチ

日本に住んでいる人ならば、森永製菓株式会社のお菓子を一度は食べたことがあるのではないでしょうか。代表的なものといえば「ハイチュウ」や「チョコボール」。また、「inゼリー」と呼ばれる栄養分が入ったゼリーなどもあります。手軽に食べられる便利さが注目される「inゼリー」ですが、容器に使われているプラスチックは、焼却時に排出する温室効果ガス、細かくなって海を漂うマイクロプラスチックなど、地球環境に悪影響を与える素材として、近年問題となっています。

森永製菓はこの問題に対して、キャップとストロー部分のプラスチックを軽量化することで、使用量を約９％削減しました。また、そのほか多くの改良を行い、少しずつプラスチック使用量を減らしています。

森永製菓は、多くのSDGs達成に向けた取組をしています。そのひとつが、森永製菓のSDGsの取組をまとめて消費者に伝える「モリナガ・サステナブル　笑顔を未来につなぐプロジェクト★」です。会社のウェブサイトの専用ページ内に特設サイトもあります。ぜひ身近な森永製菓の商品の裏に隠れた、問題に対するアプローチをこのサイトで知ってください。

森永製菓のSDGsに関わる取組を知ることができる

★ もっと知りたい！
モリナガ・サステナブル　笑顔を未来につなぐプロジェクト
https://www.morinaga.co.jp/sustainability/
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/morinaga.html

取材メンバー ： 五十嵐怜生、栗原萌花、前野功弥、小野安寿、荒木 脩（2022年度取材）

11 住み続けられるまちづくりを

SDGsアクション in
港区芝浦港南地区
《 港区地域交通課 》

誰もが使いやすい交通手段を目指して

ちいばす。この車体に描かれたデザインは、全て港区にある小中学校生のアイデアを元に作られている。電気で走るEV、ノンステップのものも導入し、環境や利用者に配慮したバスとして浸透している

知っていますか？ 地域のためのバス

みなさんは、東京都でどの交通手段を使えばいいのか迷ったり、分からなかったりしたことが一度はあるのではないでしょうか。多くの人が集まり、交通機関が多く存在する東京都では鉄道駅を中心としたまちづくりを進めた結果、複雑な交通網が敷かれることになりました。

今回、私たちが取材を行った港区役所・街づくり支援部の地域交通課は、地域のためを思い、人々の交通をより良いものにすることを目指したバス「ちいばす★」を運行しています。ちいばすという名前は“地域に愛されるバス”というコンセプトや“小さなバス”という特徴が由来です。広範囲を網羅する都営バスとは対照的に、狭いエリアの中を回る短距離のルートに特化し、短い距離でもバスを必要とする高齢者、障害者などを含む、地域内外の幅広い年代の人が、様々な目的で利用できる公共交通です。

地域交通課では、ほかにも、レインボーブリッジ、お台場エリアを巡回する「お台場レインボーバス」の運行、放置自転車対策や環境負荷の低減、地域内の回遊性が期待される「自転車シェアリング」などを実施しています。こうした取組により、自然への配慮と、人々が自分に合った交通手段を選べるような地域づくりの両立を目指しているのです。

お台場レインボーバスの車体。
品川駅を起点に巡回している

★ もっと知りたい！

コミュニティバス「ちいばす」の紹介
https://www.city.minato.tokyo.jp/koutsuutaisaku/kankyo-machi/kotsu/bus/community-bus.html
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/chiikikoutuuka.html

取材メンバー ： 森 隆司、山田聖宗、嘉山直樹、後藤稜英（2022年度取材）

11 住み続けられるまちづくりを

SDGsアクション in 港区芝浦港南地区

《株式会社SHIBAURA HOUSE》

地域とつながる建物が未来の社会への手がかりに

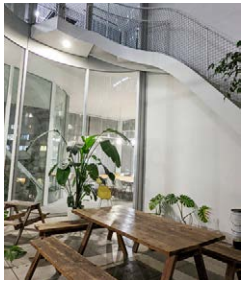
SHIBAURA HOUSEの２階から、１階のコミュニティスペースを見下ろす。全面ガラス張りになっていて外から中の様子がよく見え、まちと一体化しているよう

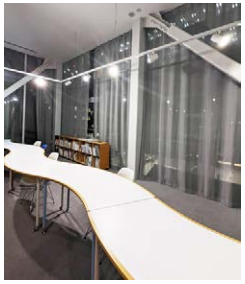
地域や海外との関わりが、次の活動に活きる

近年、地域内での人々の交流が希薄化していることが問題視されています。そんな中株式会社SHIBAURA HOUSE（シバウラハウス）は、社名を冠した社屋に地域に密着したコミュニティスペースがある珍しい企業です。社屋内で地域の人々が自由に過ごせるほか、ファーマーズマーケットをはじめとしたイベント開催やスペースの貸出も行っています。社屋全体にこだわりがあり、開放的なデザインであると同時に緑を多く取り入れ、環境面でも地域に寄り添い、盛り上げるために尽力しています。

最近は、環境配慮と社会の繁栄に着目した「ドーナツエコノミー」という考え方に注目し、これを率先して取り入れるオランダとのつながりを深めています。スタッフが現地へ赴（おもむ）いたり、オランダ大使館から寄付された本をイベントや社屋で自由に閲覧できるようにしたりしています。

社会で必要とされていることと自分たちができることのバランスを取りながらプロジェクトを企画しているそうです。また、単一的な視点ではなく、様々な角度からのアプローチを意識しながら、より良い解決策や新たな連携につなげることを考えているそうです。SHIBAURA HOUSEでは芝浦の地域を起点として、日本や社会全体の未来を見据えながらこうした活動を続けています。





左は３階のベランダ。建物内のあらゆる場所に植物が置いてある。右は３階の室内。テーブルはドーナツ型に並べ替えることも可能。奥に見えるのが、閲覧自由の本棚

★ もっと知りたい！

SHIBAURA HOUSE
https://shibaurahouse.jp
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/shibaurahouse.html

取材メンバー ： 荒木 脩、加藤早蘭、森 隆司、木村菜瑠、坂口陽菜子（2022年度取材）

12 つくる責任 つかう責任

SDGsアクション in 港区芝浦港南地区
《 みなとリサイクル清掃事務所 》

資源の有効利用を港区民と区の連携で実現

田町駅近くの施設「みなとパーク芝浦」に設置されている古着の回収ボックス。港区民から集めたこの古着は、事業者を通して海外で販売される

みなとリサイクル清掃事務所の３Rの取組

３Rとは、リデュース(発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再生利用)のこと。みなとリサイクル清掃事務所★は、様々な３Rに関する取組を行っています。例えば、リユース食器の貸出です。ワンウェイプラスチック(使い捨てプラスチック)や紙でできた食器と違って、何度も使い続けることができます。これを地域などのイベントに無料で貸し出すことで、ごみの減量を目指しています。また、木製粗大ごみを粉砕し、接着剤と混ぜて成型することで新たな板材を作ったり、状態の良い家具を引き取って販売したりしています。そして、これらの活動を「みなと区民まつり」など区のイベントでパネル展示し、広く周知しています。

これらの活動は、全ての港区民が参加することに意義があります。ここで言う港区民とは、港区在住の人だけではなく、在勤・在学・来訪の人たちも含まれます。ごみ問題はとても大きく、一企業・一個人の力で解決まで導くことは簡単ではありません。まして、ひとりでもこの問題をおろそかにしてはどうにもなりません。みなとリサイクル清掃事務所だけに任せるのではなく、港区民が主体となって、それぞれが気を付け、生活することが必要なのです。

《 港区で３Rを推進している、ゆるキャラ 》

港区リデュースキャラクター
だんじろう(断辞郎)

港区リユースキャラクター
リユー助

港区リサイクルキャラクター
エコル

★ もっと知りたい！

みんなと3R
https://minato-3r.org
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/seisoujimusyo.html

取材メンバー ： 前野功弥、星見和哉、平澤輝一(2022年度取材)

14 海の豊かさを守ろう

SDGsアクション in 港区芝浦港南地区

《 東京ベイ・クリーンアップ大作戦 》

ごみを拾い自然環境を知って東京湾をめぐる問題の解決へ

2023年６月10日に開催された「東京ベイ・クリーンアップ大作戦」。当日は、たくさんの人々がごみ拾いをしていた

地域社会とSDGsの連携

お台場で開催された「東京ベイ・クリーンアップ大作戦」で行われたのは、ごみ拾いと東京湾の魚の生態の変化、大学生による水質調査でした。ごみ拾いでは、ごみを取るために水の中に入ったり、袋いっぱいにごみを入れたりしている人もいました。

私たちが感じたのは、塵（ちり）も積もれば山となるように、何となく捨ててしまうごみも何人も捨てれば海を汚してしまうということです。SDGsを授業などで学んだことはあっても、実際自分の目で見るのとでは、意識なども雲泥の差でした。よくプラスチックごみが環境に良くないと聞きますが、実際海に落ちているものはプラスチックだけではありませんでした。プラスチックではなくとも海を汚し、海に悪い影響を与えています。漁業が盛んだった昔の東京湾の話を伺い、十数年で食物を育てられなくなった日本の現状を理解しました。

では、私たちにできることは何でしょうか。私たちにできることは、ごみを捨てないこと。とてもシンプルですが、一番大事なことだと私たちは思います。みんながごみを捨てないようにするにはどうしたらよいのか、レジ袋が有料になって果たして実際ごみは減ったのか？　まだまだ色々な課題がありそうです。

海中に落ちていた、空き缶のごみ（撮影：東京海洋大学潜水部）

★ もっと知りたい！

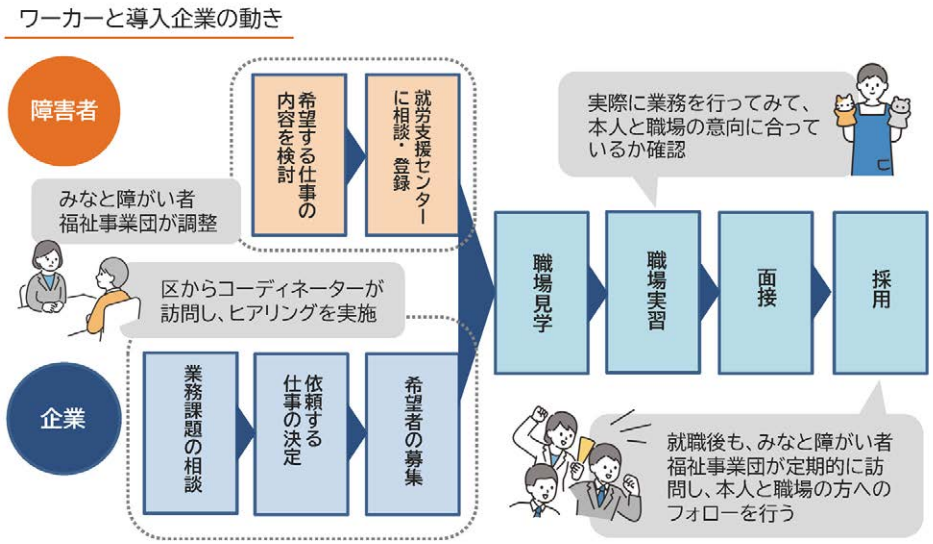
東京ベイ・クリーンアップ大作戦
https://www.kissport.or.jp/bayclean/
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/sdgsactionbookshuzai2.html

取材メンバー ： 伊代野真央、内田夏菜子、神山栞音、小髙輝璃、嵯峨拓弥（2023年度取材）

10 人や国の不平等をなくそう

SDGsアクション in
港区芝浦港南地区
《超短時間雇用》

港区モデルとしての「超短時間雇用」



港区では、みなと障がい者福祉事業団と港区が、就労を希望する障害者と障害者雇用を進めたい企業のそれぞれにヒアリングし、超短時間雇用のマッチングを行う(提供:みなと障がい者福祉事業団)

「超短時間雇用」とは？

日本には、従業員が一定数以上いる事業主は、従業員に占める障がい者の割合を法定雇用率以上にする義務「障害者雇用率制度」があります。一定割合の障害者の雇用を義務付け、一般の方と障害者の雇用機会を均等にすることが目的です。この制度は週20時間以上働く人を対象としていますが、障害がある方の中には、働く能力や意思があるのに長時間働くことが難しい人も多くいます。

「超短時間雇用」とは、東京大学先端科学技術研究センター社会包摂システム分野が提唱するインクルーシブな働き方です。週1時間からでも一般企業や施設などで役割を持ち働けること、そうした働き方を実現する地域社会の支援システム、超短時間での業務・雇用環境を職場内につくるための技術などを総称し、「超短時間雇用モデル★」と呼ばれています。

港区では、特定非営利活動法人みなと障がい者福祉事業団★と港区が、雇用に悩む企業と、長時間の就労が難しい人をマッチングしています。港区ではこれまでに10人のマッチングが成立しています。この活動は、障害がある方などの就労機会の拡大や社会参加につながっています。

取材させていただいた、みなと障がい者福祉事業団の根川和大さん(左)、温 海燕さん(中央)、長瀬伸一さん(右)

★ もっと知りたい！

特定非営利活動法人みなと障がい者福祉事業団
http://www.minato-jigyodan.org
障害のある方の「超短時間雇用」を促進し、多様な働き方を支援しています！
https://www.city.minato.tokyo.jp/houdou/kuse/koho/houdouhappyou/documents/1221-4.pdf
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/sdgsactionbookshuzai1.html

取材メンバー ： 岡村稚桃、春木美璃、内海舟水、髙橋治士(2023年度取材)

3 すべての人に健康と福祉を

SDGsアクション in 港区芝浦港南地区
《RDD浜松町ビルディング》

希少・難治性疾患への理解を広めるために

RDD浜松町ビルディング2023の運営スタッフ。会場とリモートでのハイブリッドでウェビナーを開催し、幅広い年齢層の800人が参加した(提供:オーファンパシフィック)

イベントを通じて患者さんと社会をつなぐ

「希少・難治性疾患」という言葉を聞いたことがありますか？　患者さんの数が少ないことや病気のメカニズムが複雑なことなどから、治療に関する研究開発が進まない疾患を指します。

Rare Disease Day（世界希少・難治性疾患の日、以下RDD)は、そうした患者さんの生活の質の向上を目指して、2008年にスウェーデンで始まりました。RDDの趣旨に賛同し、日本では2010年からイベントが開催され、毎年開催地域が増えています。公認開催地区のひとつとして港区芝浦の「RDD浜松町ビルディング★」では、ビル全体で活動を推進しています。

その事務局を担う株式会社オーファンパシフィック★は希少疾病用の医薬品を取り扱う製薬会社で、希少疾病に関することを多くの方に知ってもらえるような活動も行っています。希少疾病の患者さんの多くは自分の病気のことを知ってもらいたいと感じているそうです。RDD浜松町ビルディングの活動のひとつとして、実際に患者さんやご家族からお話を伺い、希少疾病について学ぶイベントを開催しています。また、中学生以下の子どもを対象にお絵かきを募集し、希少疾病についての理解を広める活動を行っているそうです。

このようなイベントが、患者さんと社会をつなぐ架け橋となり、希少・難治性疾患の認知度向上のきっかけとなるといいですね。

お絵かきも、ウェビナーとともに実施。多くの親子が楽しんだ(提供:オーファンパシフィック)

★ もっと知りたい！

RDD浜松町ビルディング総合サイト　https://www.rddhamasmile.info
株式会社オーファンパシフィック　https://www.orphanpacific.com
RDD Japan　https://rddjapan.info
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/sdgsactionbookshuzai4.html

取材メンバー ： 廣瀬茉菜、小山田みこ、高綾 香、有馬健太(2023年度取材)

5 ジェンダー平等を実現しよう

SDGsアクション in 港区芝浦港南地区

《特定非営利活動法人Waffle》

IT業界で女性が輝く未来のために

Technovation Girlsの日本公式ピッチイベントで、全39チーム・219名から選抜された10チームがアプリと事業計画をプレゼン。2023年４月開催(提供:Waffle)

可能性を信じて

今、STEM分野(理系分野)で活躍する女性が少ないことが問題になっています。そんな状況を受けて、女性のために活動している特定非営利活動法人Waffle(ワッフル)★を取材させていただきました。

IT人材は今多く求められ、就職活動で困ることはなく賃金も高いと言われています。しかし日本のSTEM分野の学部の女性比率は約17%でOECDワースト１位(2019年)というのが現状です。その原因のひとつには多くの女性が応援されにくい環境が挙げられます。日本では「理系＝男性」という固定観念によって周りの大人たち(先生や保護者など)から圧力がかかり、理系に進みたくても抵抗が生まれてしまうそうです。つまり女性は、理系が苦手ではないが、技術と触れ合う機会が男性に比べると少ないことがあるのです。

そのような課題を解決するために、Waffleは女子中高生や大学生・大学院生を対象に「Waffle Camp」「Technovation Girls」「Waffle College」などのプログラムを実施し、ITに興味を持ってもらう機会を提供しています。さらに先生や保護者などに向けた講演を行うことでステレオタイプ(固定概念)を払拭し、全ての人がやりたいことを実現できるように背中を押しています。私たちもこの課題の解決を願って、Waffleの活動を広めたいです。

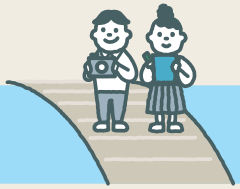
Waffleの毎床愛美さんから企業の取組などを聞く

★ もっと知りたい!

特定非営利活動法人Waffle
https://waffle-waffle.org
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/sdgsactionbookshuzai3.html

取材メンバー ： 久慈琴葉、須永 凪、藤野陽南子、有馬健太、中西華菜、岡村稚桃(2023年度取材)

高校生、運河を歩く！



水に囲まれた、海上都市のような芝浦港南エリア。高校生が運河を歩き、水との共生や課題を学びながら、未来につながるまちづくりを考えます。

かつて豊かな漁場だった芝浦の海は、明治末から埋立てが進み、港湾に整備されました。その際、物資を運ぶ水路として造られたのが、芝浦港南のシンボルといえる運河です。

時代は下って昭和バブル期、水辺の倉庫はディスコ等に改装され、熱気渦巻く夜遊びスポットに。その喧噪（けんそう）が去ると、高層マンションが続々と建ち、多くの人が生活する居住地域になりました。

人口が急増した今、地区は大きな課題に直面しています。水辺を活かした将来性ある都市開発や、水質改善の必要性。SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」と、目標14「海の豊かさを守ろう」につながります。港区はこれらを実現するために、企業や地域との連携を進めています。今回は、SKDs学びのまちプロジェクトに参加した高校生が、水辺の魅力と可能性を発見する運河散歩に出かけました。

田町駅前も昔は水辺だった（1967年頃）
出典：港区オープンデータカタログサイト（2023年12月12日に利用）

1 港区立伝統文化交流館

1936年、芝浦花柳界の見番（けんばん）として建てられた、港区の指定有形文化財。芸者さんを手配したり、踊りや歌の練習が行われたりする場所でした。伝統文化を伝える交流拠点として活用されています。 P.53

▲1982年頃の姿
出典：港区オープンデータカタログサイト（2023年12月12日に利用）

2 ジュリアナ東京跡

バブル期を象徴する伝説のディスコ。流行のファッションで着飾った人々が押し寄せ、大音響と光の洪水の中で踊り明かす不夜城でした。現在はオフィスビルです。

3 運河沿いの道

潮風に吹かれて運河沿いの遊歩道を行くも、隣の遊歩道とつながっておらず、いったん水辺を離れることに。遊歩道の分断を解消する連続化工事が計画されており、もっと散歩が楽しくなりそう。

4 インクスティック跡

もうひとつ大人気だったディスコ、インクスティック芝浦ファクトリー跡へ。入り口が運河に面し、船をつけて直接店に入ったり、船上パーティーに興じたりする人もいたそうです。

5 水門と潮の満ち引き

運河は海の一部なので、潮の満ち引きで水位が変化します。大雨で高潮になると海との水門を閉め、同時に運河の水をポンプで東京湾に放出し、都市の水害を防いでいます。

◀1963年頃、運搬船へのごみ積み込み作業の風景
出典：港区オープンデータカタログサイト（2023年12月12日に利用）

6 重箱堀

運河の一部が四角く掘り込まれた重箱堀。なんと明治時代には海水浴場でした。大型汽船「ろせった丸」が停泊してホテルとして使われ、料亭も建ち並ぶ人気リゾートだったのです。

▲1982年頃の新芝浦橋
出典：港区オープンデータカタログサイト（2023年12月12日に利用）

7 桟橋建設中

船が横づけできる桟橋や新しいオフィスビルなど、再開発が進むエリアです。あわせて水辺の道も歩きやすく整備される予定。

8 屋形船

河口近くで、夕暮れの運河を航行する屋形船を見かけました。かつてこの水域で漁業に携わっていた人々が、現在では屋形船や釣り客のための船宿を営んでいます。

9 Hi-NODE

散歩の終点、日の出ふ頭小型船ターミナル「Hi-NODE（ハイノード）」に到着。船客待合所とレストラン、芝生広場があり、昼間は空と海、日没後はベイエリアの夜景に癒される人気スポットです。

P.44

水辺の良さ、もっとみんなで引き出そう

「水辺のまち　サーキュラーLAB.」は、水との関わりを考え、未来へつなげるプロジェクト。芝浦港南の大きな課題は、運河の水質、そして水辺の利活用推進です。エリア内に東京23区の下水が集まる水再生センターがあり、大雨の日は水量がセンターの処理能力を超え、十分に浄化されないまま運河へ流れ込んでしまいます。改善には都全体で取り組む必要がありますが、その第一歩となるのが「サーキュラーエコノミー＝循環経済」への転換です。一人ひとりが環境負荷を小さくする暮らしや経済のあり方を考え、実際に試してみる。サーキュラーLAB.は、地域の住民、企業、学校と連携し、環境に配慮した暮らしや水辺の良さを活かすアイデアを一緒に考える「実験室」です。

▲実施の様子

高校生が
取材しました！

《Hi-NODE TOKYO HiNODE PiER》

日の出の身近な舟運拠点
人々が集いにぎわう水辺空間へ

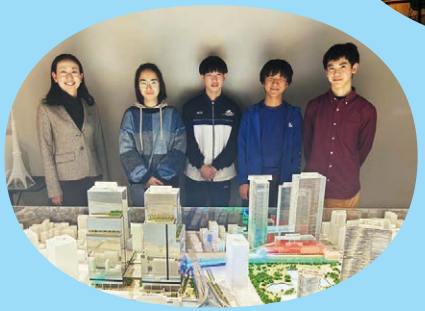
海と暮らしの新しい関係、Hi-NODEでの取組

「芝浦プロジェクト」という、現在の浜松町ビルディングを高さ約230mほどのビル２棟に建て替えるプロジェクトが、地域と連携しながら進められています。このプロジェクトではビルを建てるだけではなく、浜松町駅の周辺や水辺などをスムーズに歩けるように動線を整備したり、また地域の舟運（しゅううん）の拠点を整備したりするような取組も行われています。

「Hi-NODE TOKYO HiNODE PiER」（ハイノード トーキョー ヒノデ ピア、以下Hi-NODE（ハイノード））は芝浦プロジェクトの関連事業として東京都港湾局と連携し、2019年に東京・日の出埠頭（ふとう）に竣工しました。東京の身近な観光・舟運拠点として、船客待合所、飲食店、広場などが整備されています。Hi-NODEは、日の出埠頭に建つ切妻屋根の倉庫を模した特徴的な外観をしています。また海に面していて、レインボーブリッジやお台場が並ぶ東京港の景色を楽しめます。おしゃれなレストランに備わる海が見えるテラス席で食事を楽しんだり、家具が置かれた芝生の広場でくつろいだりできます。また夜間には連絡橋がライトアップされるなど水辺を活かした非日常的な空間になっており、イベントなども開催されています。Hi-NODEは人と人、陸と海、地域と地域などをつなげる、注目の施設です。

▲Hi-NODE外観。竹芝地区とつながる橋は夜間にライトアップされ、移動しやすくなっている。芝浦地区の更なる活性化、人の往来にとても期待が持てる（提供:野村不動産）

▶連絡橋やHi-NODEからは、竹芝、勝どき周辺の夜景も見通せる（提供:野村不動産）



◀現在の芝浦プロジェクトの取組について、詳しく多様な視点から説明いただいた。説明も分かりやすく、みんなで理解しながら興味を持って取材に臨んだ

★ もっと知りたい！

Hi-NODE TOKYO HiNODE PiER
https://hi-node.jp
詳しい記事はこちら
https://www.city.minato.tokyo.jp/shiba-kouchikusei/sdgsactionbookshuzai5.html

取材メンバー ： 森口陽太、泉 葵、謝 湘太、春木美璃（2023年度取材）

SKDs学びのまちプロジェクト
3年間の歩み

このプロジェクトでは、毎年20名前後の東京工業大学附属科学技術高等学校の生徒が自ら手を挙げて参加し、SDGsについて学び、芝浦港南地区を知り、ここで活動する企業や団体に取材して、報告会で成果を発表してきました。2021年度～2023年度の活動を振り返ります。

2021

キックオフ！

7月8日@港区立伝統文化交流館

SDGsをテーマに勉強

SDGsの歴史や17の目標、社会課題を解決するアイデアを知り、自分たちそれぞれができることを考えました。

8月11日@オンライン

芝浦港南地区の歴史、実施されているまちづくりとは？

芝浦港南地区は運河のまちであることを知りました。この年の取材先も、検討します。

9月1日@オンライン

取材の進め方を学ぶ

取材とは、どんなことをするのか？　そのノウハウを学びました。

11月18日@教室

書き方講座を開催！

この頃には、取材を終えたチームもちらほら。編集スタッフの松本麻美から書き方のコツを教わりました。

いざ取材へ！

9月下旬～2022年2月上旬

初めてのインタビュー経験が大きな学びに

初年度は、緊急事態宣言が発出された翌年でした。ある取材先とは対面、あるところとはオンライン、と社会状況に合わせて進めていきました。

取材先:みんな食堂(P.6)、Madre (P.8)、パルシステムのリユース・リサイクル(P.10)、芝浦プロジェクト(P.12)、Synecoculture™ (協生農法®)(P.14)、ポカリスエット(P.16)、ガンプラリサイクルプロジェクト(P.18)

Madre

みんな食堂

Synecoculture™ (協生農法®)

成果報告会

3月24日
@浜松町ビルディングプレゼンテーションルーム

SKDs学びのまちプロジェクト高校生フォーラム2022

取材内容をポスターにまとめて発表

消費者の意識が変われば、作る側の意識も変わるという好循環に気づいたと思います。
東京工業大学附属科学技術高等学校　遠藤信一教諭

参加生徒から

よく見る製品でも実際に企業に話を聞くと、新しい発見があることを知りました。
ポカリスエット　取材グループ

「スタートだけさせて継続できないのがだめ」という言葉が心に残りました。
みんな食堂　取材グループ

活動から生まれたこと

「ガンプラリサイクルプロジェクト」の取材から、次年度でのワークショップ実施が決定しました。 P.48

「みんな食堂」取材チームが、カードゲーム「子ども食堂を経営！ニッコニコゲーム」を作成。また、2021年度 東京学芸大学主催「SGH／SSH／WWL課題研究成果発表会」で取材内容を発表しました。

2022

キックオフ！

5月9日@教室

プロジェクトについて、まず知ろう！

芝浦港南地区でSKDs学びのまちプロジェクトを実施している背景と、SDGsの意義を学びました。

6月6日@教室

取材先を選ぼう

参加希望の生徒が集まって、改めて自己紹介し取材先候補について話し合いました。

7月15日@札ノ辻スクエア

取材の方法を知ろう

田町新聞の舟橋亮人さんにお話いただき、地域を取材するコツや楽しさを学びました。

7月19日@G-base田町

BANDAI NAMCO プラモデルとプラスチックを考えるワークショップ

前年度、「ガンプラリサイクルプロジェクト」(P.18)を取材した縁から、組み終わったガンプラのランナーを取りこぼしなく集める方法を考えるワークショップが実施されました。生徒たちはグループごとに、行動を起こしてもらえる伝え方を話し合い、動画やポスターにまとめました。

10月5日@オンライン

書き方講座の実施

フリーランスのライター、岩井光子さんが原稿執筆のコツを伝授しました。

いざ取材へ！

9月下旬～12月中旬

事前の学びが取材力の向上につながった

2022年度は、自粛されていたイベントが多く再開し、人に会うことがよりたやすくなり、取材に備えて関連イベント・施設を訪れたグループがいくつもありました。

取材先：芝浦一丁目町会、芝浦三・四丁目町会、芝浦商店会(P.20)、社会福祉法人港福会みなと工房(P.22)、森永製菓株式会社(P.24)、港区地域交通課(P.26)、株式会社SHIBAURA HOUSE (P.28)、みなとリサイクル清掃事務所(P.30)

芝浦一丁目町会、芝浦三・四丁目町会、芝浦商店会

みなと工房

SHIBAURA HOUSE

成果報告会

3月17日
@浜松町ビルディング HAMA LAB!!!

SKDs学びのまちプロジェクト高校生フォーラム2023

取材内容をポスターにまとめて発表

> 2、3年次の課題研究も、知識を得て社会課題を発見し、それを解決するアイデアを得るまでつなげてほしいと思います。
> 東京工業大学附属科学技術高等学校　北原裕子教諭

参加生徒から

> 芝浦港南地区だからこそ、たくさんの人が楽しめることがあるのだと感じました。
> 芝浦一丁目町会、芝浦三・四丁目町会、芝浦商店会 取材グループ

> 取材を経て、課題研究では障害や国籍などに関係なく楽しめるカフェを作ることにしました。
> みなと工房　取材グループ

活動から生まれたこと

2021年度に参加した生徒たちが、芝浦一丁目町会会長や芝浦三・四丁目町会副会長に取材し、テーマを「科学技術科が提案する地域観光の支援パッケージ」「芝浦の魅力を伝える提案」として研究を続け、授業で発表しました。

プロジェクト参加メンバーのうち13名が芝浦港南地区「区長と区政を語る会」(2022年11月)に出席し、武井雅昭区長と「若者から見た芝浦港南地区の魅力～もっと魅力的な街にするために～」をテーマに意見交換しました。

2023

キックオフ！

5月29日@教室

お互いを知り、プロジェクトを知る

活動の導入として、参加を希望した生徒それぞれが自己紹介し、プロジェクトの背景や活動予定を知りました。

6月10日@お台場海浜公園

東京ベイ・クリーンアップ大作戦で海をきれいに！

取材メンバーを含む生徒10名以上が参加しました。朝9時半に集合してから約1時間、一般の方々とともに潮風を浴びながら、砂浜に埋もれる細かなごみまでも夢中で拾い集めました。

7月12日@港区立男女平等参画センター「リーブラ」

港区の施設を見学

男女平等参画を目指してできた施設、リーブラ。施設内を見学した後、男女平等参画の歴史とリーブラの取組について、施設の方のお話を聞きました。

7月13日@教室

取材の仕方と記事の書き方を学ぼう

フリーマガジン「metromin.（メトロミニッツ）」元編集長の野中ゆみさんから、取材前の準備から記事の執筆までのコツを学びました。

10月11日

運河沿いのまちあるきで、芝浦港南地区のまちづくりを考える

港区芝浦港南地区総合支所協働推進課市橋拓弥さんのガイドで、運河と密接な芝浦港南地区の歴史を、運河沿いを歩きながら体感しました。P.40

いざ取材へ！

6月中旬～12月中旬

自身のテーマを持って取材先へ

2023年度は、全て対面で実施。取材先の取り組む社会課題を身近に感じていた生徒が多かったこともあり、質問が止まらないなど、取材も強い熱気を帯びていました。

取材先：東京ベイ・クリーンアップ大作戦(P.32)、超短時間雇用(P.34)、RDD浜松町ビルディング(P.36)、特定非営利活動法人Waffle (P.38)、Hi-NODE TOKYO HiNODE PiER (P.44)

東京ベイ・クリーンアップ大作戦

超短時間勤務

Waffle

成果報告会

3月15日
@東京工業大学附属科学技術高等学校

SKDs学びのまちプロジェクト高校生フォーラム2024

取材内容をポスターにまとめて発表

参加生徒から

地域や、身の回りの環境を支えてくれる人々に目を向けられるようになりました。
東京ベイ・クリーンアップ大作戦　取材グループ

普段なかなか聞けない話を聞けて、まちや日常に関心を持つことができるようになった気がします。
Hi-NODE　取材グループ

様々な話を聞きみんなで考えることで、ひとつのことに対して様々な考え方があることを知りました。視野が広がりました。
Waffle　取材グループ

3年間の活動を振りかえって

東京工業大学附属科学技術高等学校のみなさんとのプロジェクトは、3年でひと区切り。担当教員から、ふりかえりのメッセージをいただきました。

このプロジェクトに参加させていただいたことで、生徒たちは様々な立場の方々と出会い、社会や世界への興味・関心が広がったのではないかと思います。私たち教員も取材先で大いに刺激を受けました。お世話になったみなさまに、心より感謝申し上げます。

東京工業大学附属科学技術高等学校
遠藤信一教諭・北原裕子教諭・
中野沙恵教諭

ここでもSDGs

港区芝浦港南地区で SDGsが身近になる施設

地区内には、実はSDGsに関連する施設がたくさんあるんです。
ここを訪れて、学びを深めませんか。

港区立男女平等参画センター（リーブラ）

日本はジェンダーギャップ指数が低く、男女平等に世界から大きく遅れを取っています。港区では、リーブラの前身となる港区立婦人会館を1980年に設立するなど、男女平等の実現に向けて様々に取り組んできました。

現在リーブラは、田町駅近くの「みなとパーク芝浦」内にあります。入り口すぐに開かれているのが、図書資料室。その奥の学習室や料理室、保育室などの設備とともに、区内団体などに開放しています。
また、区民の男女平等参画活動を専門のコーディネーターが支援したり、講座や映画上映会といったイベントを実施したりと、SDGsの目標5「ジェンダー平等」について理解を深めるきっかけを作っています。さらに、「リーブラ相談室(港区心のサポートルーム)」では、暮らしのなかで直面する悩みの受付も。ジェンダーについて気になったら、ぜひ訪ねてみてください。

▲ジェンダー関連の専門図書を中心に、約2万冊の書籍と資料を所蔵している

◀毎年、男女共同参画週間に行われる「リーブラフェスタ」で、マスコットキャラクター“りぶら”がお出迎え

開館時間 9:00～21:30（窓口受付は20:00まで）
※休館:12/29～1/3、臨時休館日
※設備の利用は要予約
JR「田町駅」芝浦口(東口)　徒歩5分
都営地下鉄「三田駅」A6出口　徒歩6分

〒105-0023
東京都港区芝浦1-16-1
みなとパーク芝浦2階
03-3456-4149
https://www.minatolibra.jp

MAP

港区立伝統文化交流館

▲毎年１月４日の獅子舞。幸せを招く縁起物として、また邪気払いとして、華やかなお正月を楽しめる

発展目覚ましい港区ベイエリアでは、歴史に出会える場所を大切に保存し、過去を未来へつなぐ魅力的なまちづくりが行われています。代表的なものが、芝浦の路地に建つ「伝統文化交流館」。この地に花街があった1936年、料亭や置屋（おきや）などを取りまとめ、芸者の取次や遊興費の精算をする施設である見番として建てられました。都内に現存する最古級の木造見番建造物とされ、芸者や舞妓の稽古に使われた座敷もあります。

戦後は港湾労働者の宿泊所となり、やがて老朽化で閉鎖されました。しかし保存・活用を望む声を受け、耐震補強や修繕を経て、歴史と伝統を伝える憩いの場として2020年に再び開館。貴重な資料展示や、四季折々に歴史を体感できる多彩なイベントも人気です。目標11「住み続けられるまちづくり」に、歴史ある地域の特色が活かされています。

▲０才児からのファミリーコンサート。年３回実施で、子どもも大人も畳の上で音楽を楽しむ

開館時間 10:00～21:00
※休館:12/29～1/3、臨時休館日
JR「田町駅」芝浦口(東口)　徒歩8分
都営地下鉄「三田駅」A6出口
徒歩9分

〒105-0023
東京都港区芝浦1-11-15
03-3455-8451
https://minato-denbun.jp

MAP

ここでもSDGs

港資源化センター

◀びん選別。色ごとに分けて、びんや路面材などに再生　▲缶選別。スプレー缶などの異物を取り除き、磁選機でスチール、アルミに分けて、缶、自動車の部品などに再生

ものを大量に生産し、消費し、廃棄する。この一方通行が続けば資源は枯渇し、取り返しのつかない環境破壊が待っています。未来を変えるカギは、限りある資源を循環させながら、持続可能で責任ある消費と生産を目指すこと。これは、SDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」にも謳(うた)われています。

港区は循環型社会の実現に向け、ごみを減らすリデュース、繰り返し使うリユース、資源として再生利用するリサイクルの「3R」を推し進めてきました。港資源化センターでは、資源プラスチック・びん・缶・ペットボトルをリサイクルするための中間処理を行い、再生工場に引き渡すほか、家庭で不用になった家具を展示販売しています。

工事により施設見学を休止していましたが、2024年４月より受入を再開する予定です。センター２階の見学窓から自由に設備を眺められ、捨てればごみ、分別すれば資源になることを実感できます。

見学可能日時 平日9:00～12:00、13:00～15:00
※見学申込は10名から受付。案内が不要の場合は自由見学可
都営バス(品99)品川埠頭循環「品川埠頭」下車　徒歩1分
※「品川駅」港南口からの乗車が便利
※駐車場なし。公共交通機関をご利用ください

〒108-0075　東京都港区港南5-7-1
03-3450-8025（見学申込：みなとリサイクル清掃事務所ごみ減量・資源化推進係）
https://www.city.minato.tokyo.jp/jigyoukeikaku/kurashi/gomi/seso/shisetsu/chukan/shigenkacenter/shigenkacenter.html

MAP

芝浦公園

◀自然と人工物がほどよく交わる設計。日中には園内を自由に走り回る子どもたちの姿も
出典：港区オープンデータカタログサイト（2023年12月12日に利用）

新たな都市の拠点とくらしの拠点、このふたつの区画を整備し、より良いまちづくりを目指す「田町駅東口北地区街づくりビジョン」。このビジョンに基づき、区民の要望も取り入れながら2016年にリニューアルされました。

園内にあるのは、飛び跳ねて遊べる雲の形をした遊具のほか、投球場やバスケットゴール、草地広場、四季折々の姿を見せる植栽、田んぼ、水湿地などです。体を動かしたり、多様な生きものに親しんだりすることができ、目標11「住み続けられるまちづくり」を形にしながら、目標３「すべての人に健康と福祉を」、目標15「陸の豊かさも守ろう」にも働きかけています。

リーブラ(P.52)や芝浦港南地区総合支所が入る「みなとパーク芝浦」のすぐそばにあるこの公園は、早朝から夕方まで老若男女が集う憩いの場として、多くの人に親しまれています。

▲園内で行われた、田植えイベントの様子

JR「田町駅」芝浦口(東口)より徒歩7分
都営地下鉄「三田駅」A6出口　徒歩6分

〒105-0023
港区芝浦1-16-25
03-6433-2562
（芝浦中央公園管理事務所）
https://shibaurachuopark.com/shibaura-park/

MAP

SDGsアクションブック みなとく芝浦港南地区 2021-2023　PDF版

2024年3月15日　初版発行

企画
SKDs学びのまちプロジェクト

プロジェクト担当
小谷野理愛　高原麻衣　髙城竜樹　坂本則子(芝浦港南地区総合支所)
四居 淳　曽田朋恵　粂 翔太(一般社団法人芝浦エリアマネジメント)

編集統括
上田壮一

編集
松本麻美

編集協力
笹尾実和子

執筆協力
中根敬子(P40-43、P53、P54)

写真
奥田晃司(P13、P41-43、P50)　重松 賢(P46)　舛元清香(P6-7、P48)
※その他、記事内に特に記載のない写真は施設・団体から提供されたものや、生徒やスタッフが撮影したものです

アートディレクター
武田英志

デザイン
小島花恵

指導教諭
遠藤信一　北原裕子　近藤千香　中野沙恵　鈴木 卓(東京工業大学附属科学技術高等学校)

協力
市橋拓弥　岩井光子　曽我直子　野中ゆみ　舟橋亮人　村瀬 悠

協力企業・団体
一般社団法人シンク・ジ・アース　芝浦一丁目地区まちづくり協議会
一般社団法人芝浦エリアマネジメント　野村不動産株式会社

発行
港区芝浦港南地区総合支所 協働推進課

刊行物発行番号　2023229-2435

©2024 SKDs学びのまちプロジェクト
※本冊子の無断転載・複製を禁じます。

2015年９月の国連サミットにおいて、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、2030年までの国際目標としてSDGs（持続的な開発目標)が採択されました。SDGsの達成に向けて、区民、企業、行政等のあらゆる関係者が協力して取組を進めていく必要があることから、自治体にも大きな役割が期待されています。

港区基本計画とSDGsの各目標は目指す方向性を同じにするものが多くあることから、政策や施策との関連を明らかにし、各施策を着実に推進することで、SDGsの達成につなげていきます。